

沖縄の文化・芸術

日本の歴史は古い。47 都道府県に分けられた行政区分でも、それぞれに独特の伝統文化の顔を持っている。最北に位置する北海道は広大な土地にあって未来への開拓息吹を感じさせてくれる。一方最南端に位置する沖縄は南国ムードがたっぷりの島々。日本の本土から遙か離れた場所には他にはない独自の文化が育っていった。

なかでも琉球舞踊の美しさはまるで異国文化のように思える。南国特有の色鮮やかな衣装に身を包んだ女性が、哀調おびた絃の音に合わせ花笠をかぶり優雅に舞う。その姿は琉球王朝の華やかし頃にタイムスリップするかのようだ。

この衣装は黄色を背景に大胆に彩色された花、鳥、波、雲などが浮かびあげて来るように描かれている。そして大きな花笠には大輪の朱色の花がベースに、目も覚めるような沖縄の真っ青な海、銀の波を現わされている。

その他に「シーサー」がある。シーサーとは沖縄では獅子のこと。そのルーツは遙かエジプトのスフィンクス像であるとの説も。悠久の歴史のなかで中近東を超えシルクロードを渡り中国へ。その後 14~15 世紀の大航海時代に入って琉球へと伝わった。そう考えると限りない歴史ロマンが広がって来るように思えてならない。

その後、シーサーは沖縄の風土、習慣、民族性などの歴史的な変遷を経て、今日では元来の権威の象徴に加え、家の守り神、魔除け、除災招福として、屋根の上や玄関、装飾、そして愛嬌たっぷりの置物として、誰からも愛される存在となっている。

撮影 2011 年春

